

ここう庵 1981年2月21日

親愛なる老師様

今日、7日間の接心の終わった翌日、私はこの寒い季節に貴方とミセス山田が、暖かく、お元気で暮らしておられる事を望みながらこの手紙を書いております。アンは日に日に良くなっており、私も元気です。

私達は良い接心を行いました。- 見性一つ ■■■、■■■は無を通過したようです。彼は今、隻手を学んでいます。■■■は、8年間坐禅を続けていますがまだ何も見えません。貴方が来られる少し前から、進歩の見られた人は現在好調で、いろいろの公案を難なくパスしています。貴方は以前、私が一時、無を中止し、“幽霊救済”を提示した女性の事を覚えていらっしゃいますか？彼女は、この公案が少しずつ分かりかけ、見解を深めています。彼女は、“音を停止する”や“橋を渡る”などの公案を、易々と通過し、本人も満足しています。

私がこの手紙を書いている主な目的は、今年の禅師の会合には出席しない事に決め、既に阿部先生へは通知しましたが、貴方へもこの事をお知らせするためです。私はもはや、栄道老師を同僚として認めるふりをし続けることが出来ないことを伝えました。ベーカー老師も私に電話を下さり、会話の結論として、彼も出席しないということです。聞いた所、前角老師も同じ理由で欠席です。そして、阿部先生が私に電話を下さり、これらの一件には大変、理解と同情を持って下さっていることが分かり、安堵いたしました。彼は宗淵老師へ手紙を書いて、ベーカー老師、前角老師そして私の署名を彼の署名に加えて提示したい計画だそうです。私は宗淵老師の病気が、ニューヨーク禅堂の事件と関係があると思うので、私達の手紙は彼の病状を悪化させるのではないかという懸念があり、この事を説明しました。彼も私に同意し、宗淵老師の代わりに宗忠老師宛に手紙を送る案を前角老師と相談しようと言われました。宗忠老師は、栄道老師と直接のつながりはありませんが、有力な人ですから、同僚を助けるために何か有益な事をして下さるかもしれません。とにかく、この手紙を制作する上で、前角老師が参加されているため、注意深く事が運ばれるであろうと思われま。

最近、大菩薩禅堂から来た僧が私達のグループに加わり、マウイ禅堂の人々と共に暮らしています。彼は栄道老師に関して十分に話してくれたので、当所の人々は皆、禅スタディ ソサイエティがいかに不健全な場所であるか、知っています。私はこれまで沈黙を続けて参りましたので、古参の人のみ、この事を知っていました。普通の問題ならば、黙っていても事件は自然に落ち着くのですが、この状況は少し違います。栄道老師は悪僧ですが、弱い人間ではないので、消えてゆく事はありません。今、善処をしなければ、すべてのスキャンダルが表面化し、広報機関の知る所となり、アメリカの禅は大きな痛手を被るでしょう。殆どのアメリカ人にとって、道徳と宗教とは切り離せないものだと思います。ですから、禅教師があのように不道徳であるという事実は、すべての禅も同様に不道徳の色を塗られるかもしれません。

もう一つニュースがあります。てつげん先生は今年のしんざんしきを、財政問題を理由にとり止められました。これは私にとって、旅行に出かけずに済むという事で好都合なことでした。私は1982年の旅行計画はすべて中止して、ハワイでの修行に力を入れたいと思っています。多分、一度日本へ行き、山雲禅堂を訪ね、関係を暖め直したいと思うのですが、貴方のご意見を聞かせて下さい。

貴方の訪問の後、公案を見直してみました。例えば、室内応答の一部、無門関、第19、30、33、34、或は従容録、第67、(智と徳)を修正しようかと迷っています。後者の室内応答では、分別としては“今夜は非常に冷たい”しかし実際には仏陀にとって“星”であり、私達にとっては“壺”か“コップ”かもしれません。どうか私に助言を下さいますように。貴方と貴方の奥様に愛を。

ぎょうん